

2014年8月17日

ブライアン・ブルエット牧師

ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #9

OIC へようこそ。お越しくださりありがとうございます。今私たちは、ピリピの教会に宛てたパウロの手紙を学んでいます。パウロは自身が開拓したこの教会に、励ましの手紙を綴ります。パウロが描くのは、ピリピの教会の信徒たち、そして今日ここ OIC にいる私たちに向けた喜びの青写真です。私たちの喜びはイエスとのつながりと関わっていることをパウロは承知していました。そこに喜びの基盤があるので、「生きようが死のうが私は大丈夫だ」とパウロは言えたのです。2章では、パウロはクリスチャン生活について教えます。すでに学んだ個所では、イエスの心構え、つまり謙虚な姿勢で生きなければならないという教えがありました。イエスが究極の模範です。今日の聖書個所は、ピリピ 2:11-18 です。

ピリピ 2:11-18

2:11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。 2:12 そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。 2:13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。 2:14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。 2:15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中であって傷のない神の子どもとなり、 2:16 いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることが出来ます。 2:17 たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。 2:18 あなたがたも同じように喜んでください。私といっしょに喜んでください。

パウロの持つ牧者としての愛と思いやりがこの個所ににじみ出ています。パウロは、ピリピの信徒たちがよりよい教会になることを望んでいました。そのためにパウロが信徒たちに望んだことが3つあります。

#1 信徒たちの信仰が鍛えられることをパウロは望んだ。

ピリピ 2:12-13

2:12 そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。 2:13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。

パウロは、「そういうわけですから」と切り出します。これは、イエスの主権のもとにあるクリスチャンの立場を信徒たちが理解することをパウロが望んでいるからです。先週、すべてのものがひざをかがめてイエスを神と認める日がやってくると学びました。ここで、イエスの働きの一員となるために欠かせない従順についてパウロは強調します。従うという言葉が好ましいように思えるのは、誰かが自分に従うことを意味するときに限られているようです。では、私たち教会はここで何を学ぶべきでしょうか。パウロは、従順に救いを達成しなさいとピリピの教会に勧めました。クリスチャンが行いによって義と認められると言っているわけではありません。キリスト教とはじっとしていることではない、むしろ率先して動くことだということです。すばらしい救いを得たことにあぐらをかいて、この世を眺め、この世のいいところ取りをしようとするクリスチャンが多すぎます。教会にもたまには顔を出し、クリスチャンの間ではどういうことが起こって

いるか覗きに來ます。そういう人には、クリスマスやイースターにお目にかかります。「自分がどんな状態か見に來た」という 60 年代のドラッグをテーマにした歌が思い浮かびます。YOLO の精神を取り入れているクリスチャンがあまりにも多くいます。

You
Only
Live
Once

つまり人生一度きりというわけです。本気で救いの達成を望んでいるなら、13 節の「神は、…あなたがたのうちに働いて」というみことばの真理に心を留めるでしょう。神が皆さんのうちに働いておられるのを自覚していますか。神を求める気持ちがありますか。パウロは、「恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい」と語りました。それは、従順にすべてを明け渡してゆだねることを意味します。自分のうちに働いているのが自分自身ではなく神だと気づくなら、恐れおののく気持ちが湧いてくるはずです。私たちは、神に従うことで救いを達成します。その具体例は、祈り、聖書を学び、教会に集うことが挙げられます。また、教会の体が一致することや主の証人となること、御霊の賜物を用いることもそうです。御霊の実を实らせることもそのひとつです。クリスチャンとして開花するためにピリピの教会ができることとして、パウロが次に提案するのはこれです。

#2 私たちは靈的に輝くべきだとパウロは語る。

ピリピ 2:14-16

2:14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。2:15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、2:16 いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができま

私たちが神のために輝いていれば、争いや不平が入る隙はありません。神の奉仕をしながら不平不満を言うのは、光に覆いをかけるようなものです。パウロは、旧約聖書に登場するイスラエルの民を思い浮かべていたのかもしれませんが。民は荒野で 40 年以上も神を信頼せずに不平を言いました。私たちも自分の生活を振り返ってみましょう。不必要な愚痴や文句をどれほど言っているでしょうか。多すぎるのではありませんか。神の恵みに与る者に、神への疑念や不平はふさわしくありません。考えてみてください。神は、罪を裁かれて死ぬべき私たちに命を与えてくださったのです。神を疑ったり異議を唱えたりするのは、神を信頼していないことが原因でしょう。今日の教会には、不健全なレベルの猜疑心があります。これは、キリストを信頼し切っていないからだと思われま

皆さんはアイスクリームが好きですか。想像してみてください。とても暑い日にイエスがチョコレートアイスを持ってきてくださいます。イエスがそれをあなたに手渡そうとすると、あなたは、「バニラがよかったのに」と言うのです。サタンは信徒同士の間

兄弟姉妹の皆さん、私たちは味方同士です。誰もが愛される教会、神の愛を受け取れる教会をみんなが目指すなら、私たちは味方同士です。そうすれば、福音のために大いに役立つことができるでしょう。神のみことばに従うなら、私たちは明るく輝く光になれるでしょう。

ピリピ 2:15

2:15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、

私たちは、曲がった邪悪な世の中に生きています。この世は暗闇の王であるサタンに支配されています。そんな中で、正しい生き方で生きるなら、この曲がった邪悪な世の中に霊的な光を与えることができます。いつも完璧にできない自分を責める必要はありません。ただベストを尽くしてください。救いを達成し、輝こうとしていれば、何もしないよりはよほど役に立ちます。私たちの住む大阪は、イエスを愛する人たちに満ちた町ではありません。ですから、いのちのみことばをしっかり握り、イエスを積極的に告げ知らせる務めに専心しなければなりません。パウロだけでなく主イエスに喜んでいただくためです。ピリピの教会と私たちがより役立つクリスチャンとなるためにパウロが勧める3つめのことはこれです。

#3 私たちが信仰の供え物になることをパウロは望んでいる。

ピリピ 2:17, 18

2:17 たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。**2:18** あなたがたも同じように喜んでください。私といっしょに喜んでください。

パウロはこの個所をさらに強調します。民数記には、注ぎのささげ物としてぶどう酒を聖所で注ぐという記載がありますが、パウロはこれをイメージしています。パウロは、イエスと教会のためにすべてをささげるとはどういうことかを身を持って知っていました。ここで、ピリピの教会と私たちにパウロと同じ姿勢で生きることを促すのがパウロの狙いです。18節の趣旨は、イエスのために生きたパウロの模範に倣いなさいというものです。私たちは、信仰をもってどれだけささげているでしょうか。

結び

皆さんはそれぞれ今、どのような信仰の歩みをなさっていますか。イエスが皆さんに代わってなしてくださった御業をどれくらい理解しているでしょうか。今喜んでいますか。それとも不満ですか。神が会計士で、皆さんの人生を貸借対照表に書き出し、クリスチャン全員の損益計算書を出したらどうでしょう。皆さんは、神の御国に利益をもたらすことをしていますか。神の御国に損害をもたらすことをしていませんか。神がもうひとつ表を持っておられたらどうでしょう。そこにはふたつの項目があって、ひとつにはイエスとの関係を喜んだ経験が書き記されます。もう一方には不平不満を言いながらしたことが書き記されます。どちらの項目が多く記入されているでしょうか。

私たちはこの世では使節であるという事実を忘れがちです。使節は、イエスに仕え、主が私たちのためにしてくださったことを積極的に世に示しながら生きる者です。こうして私たちはクリスチャンとして強められ、私たち OIC は信仰の活気に満ちた教会になっていきます。